

平成30年度 学校運営 各分掌・学年・教科の実施報告

評価A: 90%以上の達成度 評価B: 70%以上 評価C: 70%未満

《分掌》	《目標および改善の観点》	《評価》	《取組状況と数値結果》
教務部	(1)教育課程を適正に実施する。 (2)平成31年度入試に向けて、推薦入試の選考方法および一般入試全般のあり方を検討するとともに、平成31年度入試を円滑に実施する。 (3)定期考査の実施及び管理の適正化を図る。 (4)成績処理、学籍管理、指導要録について進路指導部・学年との連携を深め、円滑に処理できるようにする。	A	(1)教育課程については適正に実施できた。また、学校経営方針に見合う教育課程となるよう審議を継続している。 (2)平成31年度入試も円滑に実施することができた。現行の運営方法をよりスムーズにするため、平成32年度入試に向けての検討も始めている。 (3)定期考査の実施・管理については適正に遂行することができた。 (4)成績処理・学籍管理・指導要録について、各学年と連携を図り遂行することができた。来年度に向けて、今年度の課題の検証と問題点の解消について、更に検討を重ねていく。
進路指導部	(1) 目的意識と主体性の涵養 生徒が自らの目的意識を持ち自己の適性を自覚し、将来に向けて夢のある進路実現ができるように、学校生活のあらゆる場面をとらえて啓発し、援助する。 (2)進路指導のための資料閲覧や進路相談に即応できる体制を確立するとともに、進路より、進路の手引き、進路資料集、3年間の進路計画の作成、校内実力テスト、ホームルーム及び学年進路ガイダンスの実施などを通して、一貫性のある指導と助言を行う。 (3)生徒の進路実現のために各学年や各教科との連携・協力を図る。 (4)各教科や各学年と連携して人間形成に資する図書館運営に努める。 (5)保護者との進路に関する情報の共有を図り、連携しながら生徒の希望の進路実現を達成する。 (6)平成30年度入学生における総合的な学習の探究的活動を計画し実行する。 (7)平成30年度入学生における調査書の変更に対応する。	A	(1)目的意識と主体性の涵養 生徒が進学に対する目的意識や自己の適性を自覚できるよう、進路講演会や進路遠足を実施し、上級学校の学問紹介を実施した。また、分野別のガイダンスなど、希望者に対する援助も行った。総合的な学習での進路講演等、あらゆる場面で啓発、支援を行った。 (2)進路指導のための資料を購入・閲覧をした。校内実力テストの実施計画を綿密に作成し、分析会を実施することによって、出願指導を支援した。 (3)生徒の進路実現のために、特に大学入学共通テストのプレテストについて、情報提供を各教科に行った。また、高大接続改革についての講演会も実施した。 (4)蔵書の充実を図る等、各教科・学年年度の連携した図書館運営を行った。 (5)各学年の保護者会での講話を行うなど、保護者への情報提供を行った。 (6)平成30年度入学生における総合的な学習の時間の探究的活動を計画・実行した。論理コミュニケーション(SFCフォーラム)を導入し、生徒の論理的思考力の伸張を図った。 (7)平成30年度入学生における調査書の変更については、東京都の成績推奨ファイルにおける入力システムの整備が求められる。
生活指導部	◎本校の生徒像及び問題点について 本校生徒は大変真面目であり、与えられた仕事はひたむきさと誠意をもって取り組むことができるが、その反面受身であるとも言え、みずから積極的に思考し行動していくことが苦手な生徒が多い。 また、本校の自由な校風や木もれ陽祭の華やかな雰囲気にあこがれて入学した生徒が多いため、規範意識の欠如や周囲への気配りに欠けた自己満足的な行動がみられることがある。 部活動は盛んであり、年度当初は部・同好会加入率が100%を超える。朝練・屋練にも熱心に取り組む活動場所は常に活気に満ちている。しかし、ここでも公共性の意識が低い面が見られ、下校時間がルールになること、部室や活動場所・更衣室等の私物化や清掃状況の低下、ごみの放置等の問題を抱えている。 本校生徒の9割以上は自転車による登校を行っており、国立駅方面からの自転車登校がかなりの数を占める。登校時に使用する道路状況は決してよいとは言えず、道は狭く自動車や通道の自転車・歩行者、通学の児童が多数交錯している状況である。したがって、自転車による事故、周辺住民の苦情が多く、過去には重大な事故も起きている。 生活指導部の担うべき役割について 今年度の教育活動の基本方針は、学業・部活動・行事の両立である。(三兎を追うものは、三兎を得る。)生活指導部は、このうち部活動・行事を主に担当している。本校は、年々進学実績も上がり、学業(進路)の面ではかなりの成果が出ていると考えられるが、反面部活動・行事とのバランスの崩れが感じられる。 部活動や行事をやり切った者が、第一志望を勝ち取るためのエネルギーを得るとの考えから、部活動や行事の活性化が必要である。 以上の点をふまえ、本年度の重点目標を下記のように設定した。 (1) 生徒の自主的な活動の支援 木もれ陽祭・部活動・生徒会活動・委員会活動など特別活動の分野において、自主的な運営を行う態度を育成していく。 (2) 安全指導の充実 部活動中の事故防止および事故への対応の体制を確立し周知徹底していく。 (3) 生活における規範意識の育成 (4) 地域との連携を深める。	A	(1) 生徒の自主的な活動の支援について 木もれ陽祭では、木もれ陽祭運営委員会を中心に、各委員会(合唱祭・文化祭・中夜祭・体育祭・審査庶務)、団チア会の活動を支援した。特に生徒の自主的活動が損なわれないよう配慮した。今年度は特に、各委員会の自主性が顕著で、生徒会規約の改正など積極的な活動が見られ、達成感を得ることができた。 部活動では、部同連を通して自主的な活動、部室や活動場所の清掃等を指導した。また、一般生徒の自転車による下校マナー向上のための立ち番を学期ごとに行った。 生徒会では、生徒総会、役員選挙における模擬選挙、光公民館祭りの運営補助、生徒会規約改正など様々な活動を支援し成果が得られた。 生活委員会では、自転車事故や苦情を減らすため、例年行っている生活委員会主体の交通安全指導を今年度も実施した。今年度は、近隣にも案内を出し7名の参加が得られた。 また、自転車の安全に関しては、団チア・木もれ陽祭運営委員会も自主的に登下校時の立ち番を行い、自転車マナーの注意喚起を行った。 (2) 安全指導の充実について 安全指導の充実のために、年間の自転車・その他の事故(部活動等)の集計を行った。自転車事故は昨年(18件)より減少したが(6件)、中には自動車との衝突など重大事故につながりかねない事故も数件起きており、引き続きの指導が必要である。 セーフティー教室において薬物乱用について講演を行った。 (3) 生活における規範意識の育成 始業式・終業式における服装(ドレスコード)や式に臨む態度の指導を徹底した。昨年度と同様に良好であった。 携帯電話(スマートフォン)やSNSの利用については、今年度特に指導を行わなかったため、来年度の早い段階でセーフティー教室を行うこととした。 (4) 地域との連携を深める。 昨年度は学連協の自転車マナーに関するアンケートで、地域住民から評価が最低であったことを受け、生活指導部による登校時の立ち番(各学期)、シルバー人材センターから交通指導員の派遣(2・3学期)等を行い、5月2日の交通安全教室では、地域住民へも参加の案内を配布した(1)。結果、今年度の学連協のアンケートでは、やや評価の向上が見られたが、今後も継続していく必要がある。また、10月の防災訓練では、地域住民と生徒会を中心とした生徒との交流の場を設け、会話の機会を作り高評価を得た。
保健環境部	(1)生徒が健康で安全な生活を生涯求め続ける能力と実践力を養う。 (2)生徒の生活の中で、無駄を省き、自然環境をより良いものにするための意識と行動力を養う。 (3)生徒が個々の問題を柔軟に解決できる能力とそれを支援できる体制を整える。 (4)教育相談の充実を図る。 (5)50周年記念行事に向け、美化・救護計画を作成する。	A	(1)美化委員を中心に、校内の美化活動について生徒が主体的に行動できるように支援できた。 (2)年15回の大掃除を設定し、校内の美化に努める意識と行動力を養うことはできた。一方で、木もれ陽祭等で、大量の資源ごみが発生する等、ゴミの減量化を行う意識を養うことが課題である。 (3)保健委員を中心とした、健康診断の実施、生徒の健康を保持増進するための「保健だより」の発行と、学習会の開催ができた。 (4)担任・スクールカウンセラーとの連携を高め、また、年5回の教育相談委員会により問題のある生徒の把握と問題解決を図ることができた。そして、その情報を教員間で共有するために、職員会議で、情報の周知を行うことができた。 (5)9月中旬に、会場での美化や救護の計画立案。当日は滞りなく実施できた。
庶務部	(1)儀式的行事を円滑に行う。 (2)各組織と連携して学校の活性化を図り、開かれた学校づくりを目指す。 (3)学校全体の防災意識を高める。 (4)施設・設備の充実及び安全対策の充実を図る。 (5)研修の充実を図る。 (6)円滑な学校運営を支える。	A	(1)すべての儀式的行事について、計画通り円滑に実施できた。 (2)防災関係では地元の自治会、防災会、消防署と連携し防災訓練を実施した。また、学校運営連絡協議会を企画・運営し、年間3回の会議を開催した。学校評価アンケートも実施し、外部評価をもとに開かれた学校づくりの指針を提示できた。さらに、PTA活動に協力して、保護者の視点を学校全体に伝える役割を果たした。合唱祭、体育祭の観覧についても保護者の希望をできるだけ生かすよう努力した。 (3)7月に予定していた防災訓練は酷暑のため延期となったが、それ以外の防災訓練については年間行事計画に従って実施した。宿泊防災訓練では第1学年の生徒が参加し、防災に関わる講話や救急法を学んだ。10月の防災訓練は地元の自治会・防災会と共同開催し、地域住民30名が参加した。12月の防災訓練では、生徒の居住地域別に学年混合で実施し、より実際の訓練に近づけた。 (4)本年度3年生の8教室の机・椅子を交換した。校舎内の一部に補修の必要な箇所が残っている。 (5)校内研修会を年間5回実施し、様々な課題を職員全体で共有できた。 (6)円滑な校務運営に関わる庶務的仕事を受け持ち、学校の仕事環境向上に取り組んだ。

平成30年度 学校運営 各分掌・学年・教科の実施報告

評価A:90%以上の達成度 評価B:70%以上 評価C:70%未満

《分掌》	《目標および改善の観点》	《評価》	《取組状況と数値結果》
広報部	(1)学校説明会等を通じて本校の実績と魅力を主に多摩地区の中学生にアピールする。また近年増加傾向にある三鷹以東地域から高い目的意識をもった受験生を集めるよう、本校websiteを充実させるなど様々なチャンネルを通じてアピールしていく。 (2)生徒アンケートを分析した結果を踏まえて、近隣の中学校、近年本校への進学実績を伸ばしている塾、NPO、PTA連合会などが主催する説明会へ可能な限り参加し、塾対象説明会などを通じて、塾における本校に関する情報提供を一層強化する。 (3)(1)(2)等の活動を通じて成績上位層の入学希望者の増加を目指し、本校進学実績の質的向上に貢献する。	A	(1)学校説明会等を通じて本校の実績と魅力を主に多摩地区の中学生にアピールしたことによって、本校の受験倍率を高めることに成功した。しかしその質的な部分については若干不満足な部分もある。 (2)生徒アンケートを分析した結果を踏まえて、近隣の中学校、近年本校への進学実績を伸ばしている塾、NPO、PTA連合会などが主催する説明会へ可能な限り参加した。その結果、本校受験の動機として塾関係者から国分寺高校を勧められたとの声もきかれるようになった。 (3)(1)(2)等の活動を通じて成績上位層の入学希望者は若干増加し、また受験倍率も増加させることに成功した。
学校公開・説明会 学校見学会等の日程	学校公開(第1回) 6月23日(土) 午前10:45～12:35 学校説明会(第1回) 6月23日(土) 午後2:00～3:30 オープンスクール 7月31日(火) 8月1日(水) 午前10:00～11:30(定員約200名) 夏休み中の学校見学 8月2日(木)、3日(金)、4日(土) 午前10時～、12時～、午後2時～(各回約300名) 国分寺高校個別相談会(文化祭会場にて) 9月8日(土)、9日(日) 学校公開(第2回) 10月6日(土) 午前10:45～12:35 学校説明会(第2回) 10月6日(土) 午後2:00～3:30	学校公開(第3回) 11月24日(土) 午前10:45～12:35 学校説明会(第3回) 11月24日(土) 午後2:00～3:30 自校作成問題解説会 12月1日(土) 午前 ルネ小平 ミニ学校説明会(中3生のみ) 12月15日(土) 午後2:00～2:40	
《学年》	《目標および改善の観点》	《評価》	《取組状況と数値結果》
3学年	(1)将来、様々な分野でリーダーとして活躍できる資質を持つ人材を育てる。 (2)高等学校での学習活動の完成を図り、学力の定着と更なる探求心を育てる。 (3)卒業後の進路実現に向け、的確な目標を持たせる。進路の決定まで、進路指導部・学年・教科が連携して対処する。 (4)学習活動と学校行事・部活動とのバランスが取れた生活を続けることができるように支援する。 (5)規範意識を持った生活態度を育成し、自立を促す。 (6)周囲の環境に気を配り、地域との関わりを常に意識し、自ら進んで積極的に活動できる人材を育てる。 (7)学校、生徒、家庭間の連絡を密に取り、相互に連携して目標達成を目指す。	A	(1)学年集会、学校行事等の機会を利用し、国分寺生としての自覚を促した。 (2)授業時間を大切にし、課題に真剣に取り組む態度を養い、予習・復習を行う家庭学習の充実を図った。教科担当と学年が連携して、講習計画を立てた。 (3)オープンキャンパスや大学説明会などに積極的に参加するように促した。進路指導部と連携し、生徒の進路指導をおこなった。 (4)学校・家庭での生活時間調査などを通して、時間の有意義な使い方を自覚させる。部活動顧問の先生方と連携を取り、学習活動との両立を図った。 (5)登下校中も含め、日常の挨拶を習慣化させる。学年集会等を利用し、人の話を聞く態度をさらに養成する。上級生としての自覚を持たせた。 (6)教室の清掃を日々行い、ゴミの分別にも気を配り、より良い学習環境を整えることができた。特に、各教室の黒板は毎時間きれいにした。 自転車の利用方法について、機会あるごとに注意を促す。自主的に清掃活動をする生徒が増えた。 (7)個人面談を1学期に2回、2学期に2回、センター試験後に1回実施した。三者面談は、1学期に1回、2学期に1回行った。
2学年	(1)将来、様々な分野でリーダーとして活躍できる資質をもった人材を育成するために、広い視野をもち、高い教養をもった人間を育てる。 (2)現在の教育課程の現状を鑑みて、基礎学力の不足を補い、高等学校での学習の充実を図る。予習・授業・復習のサイクルを確立し、学校での授業を中心に力がつけられるよう指導する。 (3)自己の進路実現に向け、的確な意識付けを行う。 (4)部活動・生徒会活動などに積極的に取り組み、学業との両立が確立するよう指導する。 (5)私物管理を徹底させ、落ち着いた学習できる教室の環境整備に努めさせる。 (6)規範意識をもった生活態度を育成し、自律を目指す。 (7)人権や生命・安全に配慮した生活習慣を身につけさせる。 (8)地球環境の保全を日常的、意識的に考えながら行動できる人間を育てる。 (9)学校と生徒および家庭との相互連絡を密にとる。面談や学年通信を充実し、保護者に対しても積極的に情報を提供する。	A	(1)修学旅行や学校行事を通して、教科の学習に限ることなく広い視野と高い教養を求めるよう指導した。 (2)予習・授業・復習のサイクルを確立し、学校での授業・補修・課題等を中心に力がつけられるよう指導した。 (3)木もれ陽祭以降、面談を通して自己実現に向けて意識付けを行った。 (4)部活動・生徒会活動などに積極的に取り組み、学業との両立が確立するよう指導した。 (5)私物管理・清掃活動を徹底し、落ち着いて学習できる教室の環境整備に努めさせた。 (6)学年集会を通して、規範意識をもった生活態度を育成し、自律を目指した。 (7)セーフティー教室を通して、携帯の安全な使い方の徹底を図った。 (8)清掃活動・ゴミの分別を通して、地球環境の保全を日常的、意識的に考えながら行動できるよう指導した。 (9)学期に一度保護者会を開き、保護者との連携を密にとりながら、面談を中心に学校・生徒・保護者の相互連絡を密にした。
1学年	(1)将来、様々な分野でリーダーとして活躍できる資質をもった人材を育成するために、広い視野をもち、高い教養をもった人間を育てる。 (2)現在の教育課程の現状を鑑みて、基礎学力の不足を補い、高等学校での学習の充実を図る。予習・授業・復習のサイクルを確立し、学校での授業を中心に力がつけられるよう指導する。さらに、探求学習において、自らの考えを表現できるように、また様々な視点から物事を見ることができるよう生徒を促す。 (3)自己の進路実現に向け、的確な意識付けを行う。 (4)部活動・生徒会活動などに積極的に取り組み、学業との両立が確立するよう指導する。 (5)私物管理を徹底させ、落ち着いた学習できる教室の環境整備に努めさせる。 (6)規範意識をもった生活態度を育成し、自律を目指す。 (7)人権や生命・安全に配慮した生活習慣を身につけさせる。 (8)地球環境の保全を日常的、意識的に考えながら行動できる人間を育てる。 (9)学校と生徒および家庭との相互連絡を密にとる。面談や学年通信を充実し、保護者に対しても積極的に情報を提供する。	A	(1)学年集会、学校行事等を通して、国分寺生としての自覚を促し、指導した。 (2)授業を大切にし、課題に真剣に取り組む態度を養い、予習・授業・復習のサイクルの確立に努め、学校及び家庭学習の充実を図った。また、探求学習を通じ、自らの考えを論理的にまとめ、表現できるように促した。 (3)進路実現に向けて、進路遠足などを通して積極的に考え、文理選択等意識が高まった。進路指導部と連携し、探求活動についての指導に努めることができた。 (4)部活動・生徒会活動に積極的に取り組み、特に勉強との両立について助言等を行い、また、部活動顧問の先生方と連携を取り、両立を図った。 (5)保健環境部とも連携し、清掃方法の統一も図るなど工夫しながら、学習できる教室の環境整備に努めた。 (6)全校集会、学年集会等の機会を通じながら、講話して下さる方々の話を聞くように指導を行い、規範意識を持った生活態度の意識が高まった。生徒に手帳を用いてスケジュール管理の意識を広めるなど自律を目指した。 (7)生活指導部とも連携を図りながら、スマートフォン等の指導を行い、安全、個人を守るなどの配慮について考えることができた。 (8)江の島奉仕活動、小学校及び特別支援学校の奉仕活動を通じて環境を守り、作るとはということを考えてさせることができた。 (9)個人面談を各学期毎に最小で1回ずつ行った。

平成30年度 学校運営 各分掌・学年・教科の実施報告

評価A: 90%以上の達成度 評価B: 70%以上 評価C: 70%未満

《教科》	《目標および改善の観点》	《評価》	《取組状況と数値結果》
国語	(1)1年次の現代文では、読解力・表現力を向上させる。文章を多く読み、話を聞き、意見を発表し合うことで、自分の世界を広げるとともに、文章力を高める。 (2)1年次の古典では、読解の基礎的な能力を養い、古典に親しむ。古典文法(特に用言、助動詞、敬語表現)、漢文句形の理解に努める。 (3)2年次の現代文では、近代以降の様々な文章を読む能力を高め、視野を広げ、考えを深め、物に心を動かす態度を養い、進んで表現する態度を育てる。 (4)2年次の古典では、古文・漢文を読む能力を養うとともに、当時へ思いを馳せ、考えを深め、進んで表現する態度を育てる。 (5)3年次の現代文では、近代以降の様々な文章の読解力を養い、演習問題を通して、思考力を育てる。特に評論文への理解を高める。 (6)3年次の古典では、古文、漢文を深く味わい、表現の特色を理解させ、演習問題を通して、読解力を育てる。特に漢文の読解力向上に重点を置く。 (7)センター試験では、全国平均の20%増以上の校内平均点の確保を目指す。入試分析を3年間の学習に生かす。	A	(1)授業での『評論』、『小説』に加え『新書』、『小説』を課題として読み、読解を進めて物事を客観的に捉えることができ、40回の漢字テスト、意見発表により表現力も向上した。 (2)読解に加え、古典文法は、補習、文法ワーク、6回的小テスト、課題問題集、漢文句法は、句法ワーク、課題問題集の取り組みにより、来年度への基礎力を身につけた。 (3)漢字、語彙テストを25回、定期考査、休業中課題においての入試問題研究などで、文章を素早く、的確に把握する力を養い、センター試験に向けての演習も行った。 (4)教科書の読解に加え、補習、週末課題、センター基礎演習、毎週定期的に行う単語、句法テスト25回、年間5回行った文法テストなどを行い、来年度への下地作りができた。 (5)漢字、語彙テスト25回、文章は今日的なテーマを掘り下げることで現代の諸問題を考察し、評論の読解につなげ、2学期以降はセンター問題演習で入試に必要な力をつけた。 (6)問題演習とその解説によるふり返りと単語、識別、句法小テストを20回行い、基礎力の土台に立った応用力を完成させた。後半は入試問題に数多く触れ、対応力を身に付けた。 (7)各大学の入試傾向、センター試験の方向性を分析した上で授業以外にも学期中、全校48点の補習を行い、2018センター試験全国平均点に対し、本校は現代文75.8点、古文34.8点、漢文39.8点、合計平均点150.3点と全国平均の23%以上の増加で、近隣進学重点校に迫る成績であった。
地歴・公民	(1)1年日本史は基礎知識の定着を図り、興味・関心を高める。2年は基礎力の充実と知識の定着を図る。3年はセンター試験において、全国平均点+15点以上を目指す。 (2)2年世界史は基礎力の充実を図り、3年はセンター試験において、全国平均点+15点以上を目指す。 (3)1年地理は地歴公民科の基礎となる世界認識を定着させ、3年はセンター試験で平均点75点以上を目指す。 (4)政治経済のセンター試験で平均点75点以上を目指す。 (5)現代社会の見方を養い、3年現社はセンター試験で平均点75点以上を目指す。 (6)倫理的な見方を養い、3年はセンター試験平均点80点以上を目指す。	A	(1)日本史 1年は授業プリントや考査の工夫により、基礎知識の定着ができた。2年は1年同様基礎力の充実を図るとともに、受験に向けた知識と思考力の養成ができた。3年は応用力をつけ、センター試験において、全国平均点+17点を達成した。 (2)世界史は、2年生については小テストを実施するなど基礎力の充実とともに、自ら問いを立て世界の出来事を分析させるなど興味関心を高めるような授業を実施した。3年生についてはセンター試験において、全国平均点+19.7点で目標を達成した。 (3)1年地理は世界認識を確実に定着させた。3年地理は平均点は西、戸山、立川、青山、八王子東より高い74.9点を獲得した。 (4)政治経済のセンター試験平均点は75.5点で目標を達成した。またまた、平均偏差値は62.0で、過去最高を記録した。 (5)現代社会の平均点は73.0点であったが、平均偏差値は60.1で、昨年並みを維持した。 (6)倫理について、目標としていたセンター試験平均点80点以上は、達成することができた。加えて、倫理についても、平均点は問題の難化に伴い下がったものの、偏差値については校内県内ともに上げることができた。
数学	(1)1年生については、方程式と不等式、2次関数、図形と計量を中心とした数Ⅰの全内容の習熟を図る。数Ⅱについても場合の数と確率、整数の性質を中心に全範囲の基礎・基本の定着を図る。 (2)2年生については、理系は数Ⅲへの発展を考慮し、数Ⅱ・数Ⅲの全内容の理解力を深め、基礎・基本だけでなく応用力を高めることを念頭に置く。文系は数Ⅰ・数Ⅱとの関連も踏まえ、数Ⅱ・数Ⅲの習熟を図るとともに、センター対策にも力を入れる。 (3)3年生については、理系は数Ⅲの内容の理解を深め、2次試験対策を中心に必要な学力の定着を図る。文系は数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲの統合的な理解を深め、センター試験対策や、2次対策の必要な者に対する対策など、進学に必要な学力を定着させる。 (4)大学入試センター対策としては、学年を問わず授業に過去問を積極的に取り入れるなど、意識を高める。期間を決めて集中的に補習・補講を実施する。	A	(1)1年生については、数学ⅠおよびⅡに共通課題の添削指導を4回約150題行い、記述の指導を行った。また教科書傍用問題集に掲載された年間課題を(650)題程度を設定し、特に成績不振者にノート提出を定期考査ごとに課し、問題を定期考査、課題テストで出題するなどして基礎・基本の定着を図った。夏季講習は7講座をのべ19日間実施した。センター試験の内容についても授業内で取り上げて指導を行った。早期講習も行なうなど応用力の養成にも着手できた。 (2)2年生についても、教科書傍用問題集のノート提出を、定期考査ごとに提出させ、問題を定期考査、課題テストで出題するなどして基礎・基本の定着を図った。夏季講習は2講座をのべ7日間実施した。授業の中でセンター試験の内容を取り上げて指導を行った。 (3)3年生については、10月初旬までに教科書の内容を終了させ演習に入った。11月から12月にかけてセンター対策講座を6日間実施した。また長期休業中には延べ11講座37日間わたって実施し270名以上が参加した。 (4)3年生においてはまた、授業内でセンター試験対策を充実させた。結果、数学ⅠⅡについては12.2点、数学ⅡⅢについては13.4点、全国平均をそれぞれ上回った。
理科	(1)<物理>実験・観察を重視し、物理的なものの見方ができるようにする。 (2)<物理>各単元の基礎・基本を確実にマスターし、さらに応用力を養成する。 (3)<物理>センター試験で75%以上の高得点を目指す。 (4)<化学>1・2年生は、基礎学力の定着をはかり、化学的な見方・考え方を育てる。さらに、実験を多く取り入れて自然科学に対する興味・関心を高める。 (5)<化学>3年生は、1・2年における学習内容の整理を行い、受験に対応できるような応用力を育成する。 (6)<生物>実験・観察を重視し、「生きている」ということを実感できる授業を目指す。	A	(1)<物理>新たに真空ポンプによる減圧実験も実施し、空気抵抗の働きなどを生徒に実感させることが出来た。 (2)<物理>教科書の例題や問題集の基本問題にしっかり取り組ませることにより、物理の基本を定着させた。3学年の後半では難関大学の入試問題も活用し、応用力の育成に努めた。 (3)<物理>3分の1の生徒が80%以上の高得点を取った。平均は70%の得点率だった。 (4)1・2年生は、小テストの実施や、課題の配布などを実施した結果、定期考査の結果などから、基礎学力の定着が十分でない生徒が減少した。さらに、1年生は10回以上、2年生は20回以上実験を行い、興味・関心を高めるとともに、化学的な見方・考え方を育てることが出来た。 (5)<化学>3年生は、演習により応用力を育て、センター試験「化学」は全国平均+20%以上、「化学基礎」は全国平均+20%以上を達成した。 (6)<生物>「生物」ではウシガエル解剖の取り組みなど、「生物基礎」では豚の心臓や腎臓、眼球の解剖に取り組むなど実際に実物を観察することで、「生きている」ということを実感できる授業を行った。「生物基礎」では夏休みの宿題に「もののけ姫」を鑑賞して、人と自然の関係について考えさせたり、明治時代からの気象統計から地球温暖化に取り組ませるなどの課題にも取り組んだ。またグループで問いについて考える授業も行った。「研究生物」では課題研究にも取り組み、全校発表会で研究成果を発表した。
保健体育	(1)自他の健康・安全についての理解を深め、自らの健康を管理し、積極的に改善していく能力を育てる。 (2)体育ではより一層育成と目標達成のために全力で取り組み、集団へ働きかけることのできる態度を育てる。 (3)保健では自らの心身、健康に興味を持ち、保持・増進する態度を育てる。また、2年次では自由研究を行いプレゼンテーションにより相手を説得する能力を身につける。 (4)体育系大学に進学を希望する生徒に対するより高度な授業内容の実施。	A	(1)それぞれの種目において、個人およびグループの目標を設定させ、様々な刺激(補強・柔軟運動・コーディネーショントレーニングなど)を与えることで体力及び技能の向上を図った。 (2)1・2年では、各種目で、各科目で、グループ学習を実施しながら練習をした。各種目の部活動や中学校での経験者がリーダーとなり学習を進めた。 (3)1年時は、1学期に豚の内臓観察をはじめ身体全般を学んだ。2学期は心肺蘇生法の実習、感染症、生活習慣病を中心に調べ発表する学習を行った。3学期はストレスへの対処等心の健康について学習した。2年時は、1・2学期に性にに関する内容で学習した。1学期は個人発表、2学期はグループ学習で授業を進めた。3学期はグループごとに自由研究をし、発表会を行った。 (4)球技種目を中心に12種目を1年間基礎練習から応用練習を実施した。また、体育系大学院の学生による講演会を行い、学生生活や将来について相談する機会を設けた。8名の受講者のうち、国立大学2名、私立大学4名が体育系の学部に進学した。
情家芸報庭術	<情報>情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得させる。 <情報>情報に関する科学的な見方や考え方を養う。 <情報>社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させる。 <情報>社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育くむ。<家庭> (1)自立した社会人になるために必要な知識と技術を身につけることを目標としていく。(2)生活課題を見つけ出し、主体的に分析・解決していくことで生活の充実向上を図る力を育成する。<音楽>表現(合唱・合奏)と鑑賞、楽典、創作の基礎力をつけ、豊かな情操を養う。 <美術>年間を通し、授業の中に発表の場を多く設け、発表から、発表の表現方法、内容からの分析力を養う。 <美術>絵画・彫刻表現の基礎的な能力を身に付け、自己表現の追及を行う。 <美術>進路実現のための指導。 <書道>芸術性の高い作品をつくる。	A	<家庭>(1)知識のみの習得にならないようできるだけ実習時間を多くするよう計画し1年間ずすめた。学年の掲示板を使って実技優秀者展示をしモチベーションの向上に努めた。(2)夏休みの課題はホームプロジェクトなど家庭生活を見つめ直す内容にし、学校での学習を実生活に生かせるようにした。<音楽>歌うことを柱にした内容で、合唱の歌い方、独唱での表現方法を考える。また、歌の背景にあるもの、歴史の流れ、文化的意義を学んだ。 <美術>3人で1チームになり、仲間と話し合うことでポスターデザインについて興味・関心を高めあうことができた。また、キャッチコピーの生成に始まり、デザインの技能を高めることができた。 <美術>油画・立体作品の制作・鑑賞を通じ、制作の楽しさを味わうとともに、発想力、想像力、構想力を身に付けた。 <書道>作品を年3回以上提出した。
英語	(1)学習段階に応じて必要な語彙力を養成する。 (2)基本的な文法力を養成し、定着を図り、運用力を培う。 (3)学習段階に合わせて、様々な内容の長文を読解する力を養成する。 (4)学習段階に応じて段階的に、高度な聴解力を養成する。 (5)英作文力を段階的に高め、国公立二次試験に対応できる課題英作文力を養成する。 (6)センターテスト8割以上の得点者150人以上を目指す。 (7)21世紀の国際社会に貢献できるコミュニケーション能力と人格的素養の基礎固めを図る。	A	(1)全学年において、毎週単語テストを実施または、LVを実施することにより、豊富な語彙力を養成した。 (2)<3>(4)全学年において、教科書以外の副教材を複数こなすことにより、授業や課題で与えることにより、定着を図った。 (5)JETやALTを活用し、様々な形式のライティングを添削してもらったり、個別に2次に向けた作文指導や講習を実施したりするなどして、英作文の向上に充実をい図った。 (6)センターテスト8割以上の得点者は162人で目標を上回った。 (7)1年生の英語表現で行ったプレゼン等を中心に、授業内でも様々なアクティビティを実施することにより充実させた。
人間と社会 総	(1)「人間と社会」においてキャリア教育および探究学習の導入を行う。 (2)「人間と社会」において1年次では、進路の意識を高め、将来の自己の生き方を選択する能力や態度を育成する。 (3)<総合的な学習>3年次では、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、よりよく問題を解決する能力を育てる。	A	(1)「人間と社会」において、進路に関する講演においてキャリア教育の導入を行った。論理コミュニケーションの学習を通して、批判的に思考する基礎を学習し、探求学習への導入を行った。 (2)「人間と社会」において、1年次で、進路に関する講演や進路遠足における大学見学及び事前学習を通じて、進路の意識を高めるとともに、将来の自己の生き方を選択する能力や態度を育成できた。 (3)自ら課題を見つけ、自ら学び自ら考え、よりよく問題を解決する能力を育てることができた。